

2022年10月21日

国土交通大臣 齊藤 鉄夫様
熊本県知事 蒲島郁夫様

代表連絡先（賛同団体は末尾掲載）

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880

流水型ダムの環境影響に関する予測に対する抗議文

国土交通省は6日に開催された、流水型ダム環境保全対策検討委員会において、川辺川に流水型ダムが建設され、洪水調節をした場合、九折瀬洞窟での希少生物の死滅やシルトの堆積、鳥類などへの影響など環境への影響が起りうるとする予測を示しました。

6日の委員会で国交省が提示した資料（「流水型ダムにより想定される主な事象及びその影響と環境影響評価方法レポート（案）との関係の整理について」）によれば、洪水調整地においては「湛水した範囲に生息している移動能力の低い動物（陸産貝類等）は、個体が死滅する可能性」「一部の植物の枯死に伴い、生息環境（山腹の樹林等の場）の変化や落下昆虫が減少する可能性」があるとされています。九折瀬洞内では、洪水調整地の試験湛水により、洞内に生息する動物の生息環境が変化する可能性。また、洞内に生息している個体が死滅する可能性」があるとされています。

ダム下流への影響についても洪水調節時「放流期は濁りが増加傾向、かつ砂の供給量が増加する（洪水調節地内に沈降したシルト・粘土や砂の巻き上げられ（原文ママ）ダム下流に流送されるため）。洪水調節地および減勢工からの砂・石礫の供給量変化により河床が変化する。平常時に洪水調節地内からのシルト・粘土や砂の流下による濁りや砂堆積が生じる」などとしています。しかし、この資料はダムサイト予定地周辺に生息するとされているクマタカなどの絶滅危惧種のことには触れていません。

命と環境の両立を図るのが流水型ダムなどと蒲島知事は述べていますが、国交省自身、そのようなことはなく、清流を壊し、生き物を死滅させるという環境への多大なる悪影響を認めたものです。

国交省は8月に策定した球磨川水系河川整備計画では、「環境への影響の最小化を目指す」などと述べていますが、生き物を死滅させておいて、何が「最小化」でしょうか。整備計画策定前にこの予測が出されなかったために、環境面も含めたダム計画の是非を県民は判断できませんでした。貴職らは県民をだましてダム計画をこり押しするつもりだったのでしょうか。「生態系が台無しになる可能性があるのに、ダムを造る必要があるのだろうか。住民との議論もなしに、ダム計画が進められている」と憤ったという県民がいますが（自然観察指導員県連絡会副会長・中田裕一さん、2022年10月7日付け熊本日日新聞）、全く同感です。

このように環境に多大なる悪影響をもたらす流水型ダムを推進しようとする貴職らに対して、抗議するとともに、生き物を絶滅させる可能性があるダム建設を中止するよう申し入れます。

以上

賛同団体一覧

7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼 香代子 市花 保
坂本町被災者・支援者の会 代表 本田 進
ダムによらない復旧・復興を求める人吉・球磨の会 代表 林 通親
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部 明廣
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
瀬戸石ダムを撤去する会 共同代表 出水 晃 上村 雄一 本田 進